

寄稿

八幡神社本殿

檜皮葺屋根保存の想い

八幡神社本殿は元禄12年(1699年)建築され、火災にもあわず当時のまま現存し、日本では珍しくなった屋根「檜皮葺流造」建造物の文化遺産です。

本年3月、八幡神社本殿並びに棟札が福山市重要文化財に指定されました。



私は「古いというだけで檜皮葺本殿を遺すことにどんな意味があるのか」ずっと自問自答してまいりました。

古いものはいずれ朽ちて新しいものに入れ替わるこれも道理です。年寄りが手を下さなくてもなるようになる云々。またどの方法をとるにしても、また雨漏りするようになってからの修復はそれ相当の費用が掛かることもわかりました。

何より一度壊してしまつたら失つたものももう元には戻せないことでした。

思い起こせば、私の幼少時近くに神社がありました。正月には晴れ姿で皆が集い、

秋の祭りには夜店が出て小遣いを握りしめて「射的」や「金魚すくい」をやりました。

入学試験の朝には「神様にお願ひ」しました。いつも神社が心の拠り所でもありませんでした。境内のさわやかな空気が好きで、そこに本殿が穏やかにたたずんでいるのが当たり前でした。

皆様にとっても「八幡神社」が心の拠り所だったことがきつとおありだと思えます。

又、古い物には未来につながる魂が宿っている様に思います。やはり「八幡神社」は皆さんの心の中にいつもあるのではないかと私は思いました。

そしてそれは「新しく」建て替えるより昔の儘残せるものなら残した方が良いのだと思ひました。やっと当初の悩みが解けすつきりました。

吉田 昌雄

神道あれこれ

「神宮大麻(じんぐうたいま)」

天照大神のお力を宿し、恵みを与えてくださる神札で、毎年11月伊勢神宮から氏子に頒布されます。

平安時代末期伊勢の御師と呼ばれる祈禱師が全国各地で祈禱を行う際頒布したことが始まりです。その後明治維新



で御師の頒布は禁止され伊勢神宮だけが各神社を通じ氏子に頒布されることになりました。



クラウドファンディングへの取り組み

クラウドファンディングは趣旨を賛同された方から協力を集める試みで、多くの成果を上げています。

やはり専門の業者にお願ひした方が効果的であることがわかりました。大手は2社「CAMPFIRE」と「FUNDRA」の2社あります。

事前準備(目標額の設定、奉賛の趣旨を伝える言葉、ネット等の拡販)が大切なようです。また返礼品、手数料等差し引きすると手元に残る奉賛金は70%程度になるようです。

想定以上に大変手間のかかる作業であることもわかりました。

奉賛会ではプロジェクトメンバーで具体的に取り組む準備を始めました。

「注連縄(しめなわ)」

縄文時代巨大な樹木や岩石に神が宿る神聖な場所と言われていました。



神々のいらつしやる場所と人が住む境界を示すため「注連縄」が用いられたといわれています。邪気が入つてこれられないようにするため「魔除け」や「結界」の意味があるとされています。(EX天岩戸)しめ飾り、勧請

縄、茅野輪もこの派生といわれています。中条八幡神社では毎年総代の力で「注連縄を新しく作り奉納しています。」

奉賛会便り

奉賛のお願いに各戸を回って...

9月残暑の残る各戸を回りました。ごこの家もすでに情報が入つていたのか好意的でした。

これから集金が始まると色々意見も出てくるかもしれませんが、毎年1万円については異論がありませんでした。福山市の重要文化財指定はインパクトがあったと思います。文化財なので福山市からの補助はないのか?と聞かれました。(委員:TM)

この度の奉賛のお願いにあたりましては、趣意書配布の省力化の提案等色々配慮したお声掛けをしていただき感謝しています。本殿檜皮葺の破損状況や福山市重要文化財指定など随時情報が届いていたこともあり本事業のご理解をいただくことができました。今後ともよろしくお願ひいたします。(高田)

七五三は地元の氏神様へ

中条八幡神社では氏子のお子様の健全な成長をご祈念申し上げ例年11月にお祀りしております。

5代將軍徳川綱吉の時代徳松の健康を祈つたのが始まりとされています。数え年で、女子三歳は「神置きの儀」、男子五歳は「袴着の儀」、女子七歳は「帯解の儀」に行い、神様に報告する人生儀礼です。

皆様のお参りをお待ち申し上げます。
中条八幡神社 宮司 吉田令江
084・967・0608



Instagramで「ひわだの社」を検索
八幡神社の行事がいろいろご覧いただけます。